# 一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集長
岡本博和


地区社協の本年度の運動方針　＆もっと身近に
七夕祭り　規模縮小して開催する
意見や提言、お知らせなど募集中

## 一身田地区社会福祉協議会
# 今年度の事業計画を発表
# 地区社協をもっと身近に

一身田地区社会福祉協議会（地区社協）会長望木幹雄氏は紙面総会を開き、令和3年度の事業報告、決算報告、4年度の事業計画、予算案が承認された。3年度の収支決算では、収入7，271，593円、支出3，998，454円。収入の大半は、敬老事業の助成金、共同募金の分配金、地域福祉資金の助成金である。支出は事業費として、敬老会、凧揚げ大会、グランドゴルフ、フラワー研修、笑顔の写真展、にこにこサロンの支援、ノボリや新聞発行の広報活動などであった。

### 地区社協

まだまだ認知度が低い地区社協であるが、地域住民にとっては、頼りになる団体。生活や福祉、困りごとの相談などに行政と連携して誰もが安心して暮らせる町づくりを推進している。

自治会、民生委員、体育振興会、老人会、婦人会、交通安全推進協議会、青少年育成協議会、一身田小学校、同PTA、一身田中学校、同PTA、公民館、商工会、観光懇話会、消防団、青年団、ほっとガイド会、スポーツ少年・少女団、一身田の新聞の19団体から成り立っている。

6月13日、中区の井戸端サロンでは音楽療法が行われた

地区社協会長の望木さんは、「みんなで支え合いの精神で色々な課題を共有することが大事で、課題を見つける、声掛けするなどで改善や提言を取り込んでいきたい」。「何より、『顔が見える』『声が聴こえる』地区社協でありたい。」と話される。

### 地区社協もっと身近に

行政や関係機関だけでは目の届かないコトが多々ある。支え合いの精神は社協の本髄である。住みよい町にするためには生活課題として「困りごと」の問題は避けては通れない。

「買い物に行きたくても不便で、行きにくい」「行ったとしても買った物を持ち運べない」などの交通弱者の嘆きの声。

子育て世代からは、「私たちは共稼ぎで、仕事を終えて帰宅しても次は家事や子育てと365日休み時間がない。ほんの少し地域の方々見て頂くと有難い」「引っ越してきたばかりで何も分からず寂しい」など、『仕方がない』、『諦めるしかない』の声は切実である。

津中部中地域包括支援センター長の谷口美千子さんは、「こんな時こそ私たちの出番、民生委員さんや地区社協のメンバーさんらと一緒になって解決を図りたい、ケア会議を持ちたい」と熱弁される。

地区社協が増々活性化するには、ボランティア活動やNPOがより活動的に、そして、次世代を担う世代の協力が必要となる。自然災害や緊急避難、ひいては地域のイベントなどには大きな力となる。

声なき声を拾い上げ世代間ギャップのない住みよいまちづくりを前進させるには常時、声が届く『場所』、いつでも声を聞く『人』が必要である。「ホッとするに一身田」は、福祉のの街づくりには最適な場所である。

2年2月9日　凧揚げ大会　大凧が宙に舞う

## 投稿
# 一身田の活性化に思うこと

平野在住　小林伸生

津市一身田には国宝専修寺（通称高田本山）があり、しかも3つの駅を持つなど活性化への色々な潜在能力がある。

しかし、まだ全国的には知名度が低く駅も無人駅、その実力を発揮できていない。のどかで落ち着いた良い街と言う声も有るが、ここに住む者としてはもう少し活気と賑わいが欲しい。

高田本山を積極的に広報し知名度を上げるのは勿論であるが、一つの名所に依存するだけでは広がりがない。

話題作りの面展開が必要と思う。

例えば、毛無川を核とした話題作りは興味深い。最近の健康志向から、堤防沿いを整備し、近鉄江戸橋駅から高田本山迄をウォーキング、サイクリングコースにする案はどうか。車が通らず安全である。

沿道を部分的にアルミ缶風車、花、錦鯉放流などで、夜はLEDイルミネーションで楽しませる工夫は面白い。他にも話題作りのアイデアはたくさん考えられる。

問題意識と熱意を持ち、みんなの力を結集し、また近隣地域の名所との連携、行政の協力も得ながら、一身田の活性化が実現できたら何と素晴らしい事か。

# 七夕まつり三年ぶりに行われる
## ◆7月10日（日）仲之町通りをメイン会場に

5月も終わりの29日、一身田青年団の面々が七夕まつりの準備のため集まってきた。7月10日に開催される祭りの備品の確認や点検を行うためである。

昨年、一昨年とコロナ禍で中止を余儀なくされた。「こんな事は初めてで考えすらしなかった」と団長の中宮寛雄さんは笑う。

39回目の今年は規模を縮小して開催する。

メインは笹飾りで、高田幼稚園、高田子ども園、豊野保育園、志登茂保育園、ゆたか子ども園、大里幼稚園、同保育園、すばる児童館みのり苑、一身田小学校などの協力を得て仲之町通り一体を笹飾りする。

イベント企画としてルーレットゲーム、コリントゲーム、輪投げ、ストラックアウトなどを企画している。もちろん、往年の名作「機関車」は今年も健在。よさこい踊りは「極津」が出演、祭りに華を添える。

昭和58年から始まった七夕まつり。当時の一身田もモータリゼーションや郊外の大型店舗化、後継者問題が深刻化、しもた屋が増えつつあった。このような環境の中で、商工会の若い人たちが集まり、子ども達が中心の祭りを作ろうと立ち上げたのが「七夕まつり」であった。当時は何もかも手づくりで、その最たる物が今も活躍している機関車。「ぜひ、応援して欲しい、そして、楽しんで欲しい」と、副団長の藤井さんは呼びかけている。

35本の笹飾り、子ども達の願いが叶いますように

**地区社協主催の主な行事**

9月17日　敬老のつどい
11月19日　グランドゴルフ大会
2月19日　凧揚げ大会

**一身田の主な行事**

7月10日　七夕まつり
11月13日　寺内町まつり
同　しあわせ和婚

盆踊り大会は　中止

# 婦人会活動

一身田婦人会
会長　岡　静美

本会は諸先輩の方々から受け繋がれてきた伝統ある立派な婦人会であることに誇りをもって活動を続けております。

地域の自治会連合会、民生委員・児童委員協議会等多くの会長様方の助けをいただき、相互関係のつながりを大切にして、一身田の行事に協力させていただいております。4月には3年ぶりに総会を開催できた事は会員の参加のお蔭と感謝致します。

今後の予定としましては、7月に日帰り研修会、10月にアンサンブル、ドルチェ（楽器演奏会）チェアーヨ等、楽しい行事も行います。個々の健康に留意して多くの皆さまに参加してほしいと願います。

昨年開催しましたドルチェ　アンサンブル

# 三重県の女性　健康寿命　全国一位

一身田地区老人クラブ連合会　会長　鈴木良次

厚生労働省から健康寿命（2019年調査）が発表され、三重県女性の77・58歳が全国のトップと言うホットニュースが公表されました。

伸びた要因は、脳血管疾患や関節疾患の減少、高齢者の社会参加の広がりをあげています。

そのような嬉しい結果、平均寿命から健康寿命を差し引いた支障期間が縮小されました。

昨年、一寿会は健康寿命を伸ばす目標を掲げ、コロナ対策を充分に図り、野外活動の催し物に心がけました。

更に、笑顔でふれあい、巣ごもらず、会員同士への寄り添いを願い、一身田地区の各種組織との繋がりや関りを推奨して、会員が「つながる」ことで健康寿命を伸ばせるように想い、協賛させて頂きました。

昨年度の一寿会は老人大学での芸能大会、清掃活動、88歳以上への友愛訪問、伊勢神宮・海女小屋体験・ヴィソン見学旅行、ミカン狩り、更に一寿会カラオケ愛好会、趣味の作品展等の参加で「つながり」を図りました。

加えて、一身田公民館の寿大学をはじめとした16の公民館講座や19団体による各種の趣味の講座では、533名が「つながって」います。

高齢の方々の取り込まれる意欲が、健やかな生活を維持されています。

更に、グランドゴルフ、サロン、寄せ植え研修会、歩こう会、笑顔の写真展へと「つながる」ことで一身田地区民の健康寿命を伸ばすことを願っています。

## みんなの便り

# 寺内町の館　開館二十周年を迎えて

一身田寺内町の館運営委員会会長　岡野勇治

平成十四年十一月一身田寺内町「高松院」跡地に高田本山専修寺や一身田寺内町の情報を発信する要所として、また、歴史・文化の息づく地域コミュニティの活動拠点として「寺内町の館」が開館し早や二十年の歳月が経ちました。

開館二十年の節目を迎え「寺内町の館」設立にご尽力戴いた先達に感謝の意を表すると共に、この先、更なる飛躍・発展の為には、これまで以上に情報発信の要所として、地域コミュニティの場として参拝客・観光客、地域の皆様に愛され親しまれ、気軽に立ち寄っていただく、規模の大小・人数の多少に関わらず手軽にご利用いただく事に尽きるのではないかという思いです。

これまで地域の皆様には各種会合、イベントを始め茶道、生花、着付け等教養の場として、更に名松、巨松の誉れ高く鮮やかな深緑の小庭園ではハーモニカ、バンド、コーラス等サークル仲間の練習やほっとガイドによる遠来からの参拝客、観光客のおもてなし、交流の場として多いに利用いただきました。

寺内町のかつての賑わいは先達の努力ですが、これからは私たちの手によって、より以上の賑わいを実現すべく、その為には館関係者はもとより、ご町内の皆様利用者、ご町内の皆様一人ひとりが一身田のスポークスマンとなって「専修寺参り！寺内町巡り省けば片参り」、「専修寺参り！館に寄らねば片参り」を常に念頭に、「歴史と文化の町一身田、国宝のある町一身田、ホッとするに一身田！」を町の誇りとして、今後とも増加するであろう参拝客・観光客に対する真心のこもったおもてなしによって交流の輪、絆の輪は全国各地へ拡がっていくことと思います。

町中が初参り、リピーターで溢れ「大法会、ようこそお越し下さいました！」「お久しぶり、お七夜賑わっているわよ！」「お帰りなさい、月命日のお粥食べに行こうか！」等々の挨拶が、あちらこちらで飛び交う日が必ずやって来ることを願っています。

# 一身田郵便局の新築について

一身田郵便局長　池村充功

令和5年8月完成予定の一身田郵便局。木造建築の平屋建てです。
公民館側（北側）に建てられ、現建物付近は駐車場で、南側が入口です。

一身田地区にお住まいの皆様、本年四月に一身田郵便局長を拝命いたしました池村と申します。平素より郵便局をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。これより一身田地区発展のため全力を注ぐ所存でございますので宜しくお願い申し上げます。

さて皆様がご心配をいただいております局舎新築の関係でございますが、コロナ感染も少し落ち着きをみせ延期続きとなっておりました局舎工事もこの六月より開始の運びとなりました。日本郵便株式会社として全国で数局しか建設されていないエコを重視したモデル局として、簡素化された木造中心の郵便局が完成する予定です。また見通しが悪くなっておりました交差点の視界も、新郵便局が完成する事で少しは改善できる事と思います。

完成予定は来年八月頃の予定です。工事期間中は地区の皆様にご迷惑をお掛けする事もあろうかと思いますが、何卒ご理解いただきますようよろしくお願い申し上げます。

# 通学路の安全を見守りたい

一身田見守り隊長　村主英明

通学路の安全見守りは、保護者の皆さんとボランティア「一身田見守り隊」が分担協力して実施してきました。

危ない場所が多いので、安全見守りを充実させたいと、老人会や婦人会などを通じて呼び掛けたところ、何人もの方が快く手を挙げて下さり、4月の新年度から新体制がスタートしています。

現在のメンバー数は22名です。メンバーの皆さんは、本当に頑張って下さっています。自治会と社協に雨ガッパを買って頂き、感謝しています。とは言っても、体調が優れない時もあるし、都合が悪い日もあるでしょう。無理は禁物ですので、交代で休めるよう、メンバーを増やしたいと思っています。

旗や帽子などは在庫がありますので、すぐにでも始められます。1学期が終わったら、夏休み中にメンバーが集まって意見交換をする会議を開く予定ですので、そこに参加して話を聞いて頂くことも可能です。週1～2回くらいからやってみませんか？

ご連絡・ご相談をお待ちしています。

見守り隊は、おはよう運動も一緒に行っています

# 地域交流の場「寺内町の館」

寺内町の館館長　小林伸生

「一身田寺内町の館」は寺内町の歴史、文化を紹介する施設です。情報を来訪者に提供すると共に、広く外に発信する事も重要です。

また地域の交流を図る役割もあります。昨年度はネット活用で情報発信力の強化に取組みましたが、今年度は地域交流の場づくりに取組みます。

お店が所有する「まちかど資料館」の展示品や、個人の作品を紹介するスペースを設けます。公共的内容を基本とし、館を住民相互の親睦を深める場にしていきたいと思います。具体的内容はこれから検討していきます。

「ハノイの雨・ベトナム」　Pastel・Oil on Paper　F100　2016

## 田村公男　作品展

とき　7月13日（水）～18日（月）

ところ　県立美術館県民ギャラリー

一身田大古曽在住

優れたものづくり人は、材料や道具にもおのずと研究心を向ける。社会や自分に問いかけ、現場主義をぶれずに通しつづける。　山本賢司（三重画廊）

# 「一身田にぎわし隊」って？！

一身田にぎわし隊長　水谷臣吾

一身田にお住まいの皆様、こんにちは。「一身田にぎわし隊」隊長の水谷と申します。普段は、本山の茶所　蓮心庵にいます。

さて、一身田にぎわし隊ってなんだ？？という方がほとんどだと思いますので、簡単にご説明いたします。こちらは、令和3年10月から始まっており、国土交通省の官民連携事業で、日本メインストリートセンターから3年間講師が派遣され、メインなストリートプログラムという手法に基づいて、「地域や街を活性化させよう！」と云うもので、参加者は一身田が好きな方が参加されています。

高田学苑の中を通る環濠を興味深く観察

## 身近な話題大募集

編集長までご連絡下さい。

☎　232－2109

## シリーズ　本山をもっと知ろう！

# 高田本山に伝わる悲しい物語　その4

高田本山　専修寺　広報担当　玉野章法

堯秀上人のご尽力で建った御影堂

今回は、これまでご紹介した、第十五代堯朝上人の父、第十二代堯秀上人についてお話しします。

寛永十八年（一六四一）堯秀上人は専修寺住職を法嗣の堯朝上人に譲られ、祥雲院と名のられて隠居されたのですが、数年のうちに、堯朝上人に先立たれるという不幸に遇われました。

「つらつら世間の転変を観ずれば、哀傷の涙袖にあまり、静かにこの身の浮生を思えば憂懐の悲しみ、肝に銘ず。・・・・ああ悲しいかな、人の世にありてもとむるところ、こころのごとくならず。・・・老少不定にして親に先立つもあり。・・・悲しみのまた悲しきは、老いて子におくるるより悲しきはなし、恨みてもさらに恨めしきは、若うして親に先立つより恨めしき　はなしと言えり。」とある）御書の一節に、堯秀上人の血を吐くような悲しみがうかがえます。

しかし、堯秀上人は、深い悲しみの中から立ち上がって、もう一度、住職の座につかれ、まず御影堂の建設にとりかかれました。

藤堂藩挙げての援助を得て、寛文六年（一六六六）には完成させ、その年の暮、八十五歳にて多難であった生涯を終えられました。

（次号へつづく）

活動の内容としては、月に2回ほど集まり、地域の分析を行い、どうしたらいいかを考え、実行していきます。

このエリアの見どころは、やはり高田本山と環濠となり、先日もメンバーの案内で環濠をぐるっと一周回ってみたところ、今まで知らなかったことや新たな発見が多数あり、非常に興味深い内容でした。

これら環濠や、寺内町の空き家を利用したツアーなど計画できればと思っています。

私達「一身田にぎわし隊」は、いつでも新規メンバーを募集しています！年齢・性別・仕事・住んでいる場所なんて関係ないです！　一身田が好き！な気持ち一つで是非ご参加くださいませ。